

21世紀の日本のかたち（27）

バンクーバー・冬季オリンピック・パラリンピックにみる国のかたち



戸沼幸市
〈(財)日本開発構想研究所 理事長〉

1. 開会式に現れたカナダのお国振り

2010年2月12日、カナダ、バンクーバー冬季オリンピック（第21回オリンピック冬季競技大会）は、天幕風の特設会場の開会式で幕が切って落とされました。

開会式は光と歌と踊りの中、北の大自然に住む先住民族、つづいて後住民族であるヨーロッパ系の人々、少数ながらアジア系、アフリカ系、そして混血の人々でつくりあげているこの多民族共生の国家、カナダの姿をひとまとまりに見せてくれました。

この天幕には82の国と地域からの多くの人々、わが日本を代表する選手も参加し、氷柱をイメージした4本の柱が交差する形で組まれた聖火台に火が点じられ、17日間に及ぶ冬のオリンピックゲームが始まりました。



バンクーバー冬季オリンピックのロゴマーク

開会式会場のしつらえは派手派手しいものではなく、夏のオリンピックの時とは違って、私にはなにか素朴な北の大地のもてなしといったものを感じられました。

今季、開催都市バンクーバーがある開催国カナダは何しろロシアに次いで世界第2の国土（998万km²）を持つ国、日本の26倍もあります。それでいて人口3,400万人（2009.11.30）は、南関東圏（埼玉、千葉、東京、神奈川3,500万人）の人口よりも少ないのです。カナダという国名の由来はイロコイ・インディアンの「村」という言葉からきているとのこと。そしてまた、国の象徴である国旗のメイプルの葉（メイプルリーフ旗（The Maple Leaf Flag）と呼ばれることもある。）には国づくりの初源が感じられます。



カナダの国旗

同じ北米大陸でも、アメリカ合衆国と違い、カナダは北極圏に深くは入り込んでいて広大な原自然があることです。ここにひかれて私の友人（日本人）の何人かはカナダに移住しております。

2. 注目のバンクーバー冬季オリンピックゲーム

私自身、北海道育ちで、子供の頃からスキーに

親しんだスキー少年でした。それもあって今回の冬季オリンピックゲームにもついめり込んでテレビに見入ってしまいました。まずなんといってもチーム青森のカーリングでした。カーリングは見た目にはユーモラスですが、高度な技術と作戦が要求されるらしいのです。青森が育てたチーム青森は、緒戦強豪カナダを破ったこともあり、中盤戦まではいい線を行っていましたが、後半に力尽きました。

それにしても冬季オリンピックの競技種目は多種多様になったものです。1893年にオランダ・アムステルダムで始まったスケート競技（第1回スピート・スケート世界選手権大会）は、今ではほぼ全て屋内になり、スピードスケート、ショートトラック、シングルとペアのフィギュア、アイスホッケーなどと、観客共々に楽しむものになりました。

スキー競技も当初のノルディック、アルペン、ジャンプなどに加えて、今ではアクロバチックなモーグル、一枚の板に両足を載せて滑るスノーボードなどが加わりました。

人々の氷と雪の楽しみ方が広がるほどに、オリンピック種目は広がり、今や7競技86種目にも及んでいます。

オリンピックゲームは参加選手個人のものとはいえ、4年に1度の国別対抗戦に違いありません。私としてもつい日本選手のガンバリに応援してしまいます。できれば金などメダルが取れるかと一喜一憂しながらの観戦でした。

この点で多くの日本人の注目は、前評判の高い女子フィギュアスケート、日本の浅田真央と、韓国のキム・ヨナの勝負でした。氷上に繰り広げられた19才の若々しい女性の肉体の競い合いに日本人も韓国人も目を凝らしました。結果はキム・ヨナの完璧な演技に浅田真央が競り負けてしまいま

したが、大舞台での自己表現を支える精神の座軸のわずかな揺れの差が勝負を分けたのだと見ます。

今季オリンピックで、日本が獲得したメダル5つは皆スケートでした。フィギュアの銀、銅、スピードスケート500mの銀、銅、そして終盤、スピードスケート女子チームパシュート（追い抜き戦）の銀は立派なものです。

アルペンも、ヨーロッパ勢に差をつけられたままで終わりました。アルペンの回転は、1956年の第7回オリンピック冬季競技大会（コルティナダンペッツォオリンピック：イタリア）で猪谷千春が日本人初の冬季オリンピックで銀メダルを取った競技です。

いつの日かヨーロッパ勢に風穴を開けて、いま一度メダルを手にしてほしいものです。

3. メダルの数

今季、日本はメダル5に終わりましたが、もともとヨーロッパ勢が独占していた冬季オリンピックにまず日本が食い込み、続いて韓国、中国とアジア勢が大活躍をしたことは喜ばしいことです。

13億人の大人数国中国が経済など全体的に国力をつけて乗り込めば相当な戦果をあげることはわかりますが、中人口国韓国（4,800万人）がカナダ、ドイツ、アメリカ、ノルウェーに次いで堂々5位、金6、メダル数14とは驚きです。今まで兄貴分だと思っていたのが逆になった感じで、教えを請うことになりました。日本は金メダルなし、韓国・中国から遙か下の20位です。

韓国や中国は国策としてオリンピックスポーツに力を入れており、これに呼応するように選手達は国を背負って戦っているように見えます。

日本の場合、国を背負うというより、アスリートとしての自己実現の場としてオリンピックを捉え、ゲームを楽しみつつ、応援してくれる家族、

友人、職場の仲間、出身の地元喜んで貰えれば良いという風です。

たしかに国を背負って戦えといわれても、背負うべき国の姿が見えにくいのです。始めに国ありきではなく、五輪競技で金メダル（銀メダル、銅メダル）をとったときに真ん中に日の丸が揚がり、国歌が歌われてやっと日本のかたちが見えるという具合です。

バンクーバーの最終日、スピードスケート女子チームパシュートで、日本は穂積、田畑、小平があわや金と思わせる見事な2位に入り、日本の沈滞ムードを少なからず吹き払ってくれました。

そして先輩達のこの踏ん張りを、控えの15才の中学生、高木美帆がしっかりと見ていた画像が印象的でした。4年後のソチ（ロシア連邦）に向けて確かに日の丸のバトンを受け取ったに違いありません。

4. スポーツ振興と国のかかわり

今季のバンクーバー大会では地元カナダは金メダル14、メダル数26と大活躍でした。最終日にはアイスホッケーの決勝戦で隣接の強国アメリカを破り、国民の熱狂ぶりがテレビいっぱい映っていました。この勝利は多民族国家の団結に大いに力を発揮したように思われます。

逆に次季開催予定の大国ロシアは、金3、メダル15と低調で、危機感を深めている様子です。

日本の場合、金メダルなし、銀3、銅2をどう評価するか、これは近年の日本のゆらぎ、政治、経済、社会のゆらぎの反映とも思われます。

さすがに五輪の関係者はこの状態を深刻に受けとめ、国からの援助を求めています。国として青少年教育の中で、スポーツの振興をどうするか。グローバルな情報時代、オリンピックは国の姿を世界に示します。日本にとってこの少子化時代、

心身の強い若人づくりは国家戦略の柱となる重要な課題に違いありません。これに関連して青少年の気力、体力の底上げのために、世界の中での競り合いの舞台となるオリンピックスポーツに今少し国が応援してもよいのではないのでしょうか。

これはまた民間の企業の立ち直り、地域の立ち直り、国の立ち直りと軌を一にするものでしょう。

5. One Inspires Many—パラリンピックの頑張り

バンクーバーでは冬季オリンピックに続いて、3月12日から10日間パラリンピック（正式名称：バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会）が開催されました。



バンクーバー パラリンピックのロゴ

44か国・地域、500人を超える選手が参加し、熱い競技が展開されました。

日本選手の活躍も目ざましく（金3、銀3、銅5）、選手団主将を務めた新田佳浩（日立システム）はノルディックスキー2競技で力強い攻めの滑りによって欧州勢を抑え、2つの金、アルペン男子スーパー大回転（座位）では狩野亮（マルハン）がチェアと一体になって旗すれすれに急斜面を高速度ですべり降り、金に輝きました。最終日、氷の格闘技アイススレッジホッケーでは日本がアメリカと決勝を競い、わずかに及ばず銀となりました。

メダルを手にした選手に限らず、パラリンピック選手の姿は、運動機能に少なからずダメージを受けているにもかかわらず、障害をバネに並みはずれた訓練を積み、それによってハンデを克服し、健常者もはるかに及ばぬ心身の新しいありよりの地平に立っていることです。そしてその周辺にパラリンピック選手を力強く支える大勢の人、家族や職場の仲間たちがいることです。

たった一人が大勢に勇気を呼び起こす、大勢が一人を支える、まさしくバンクーバーパラリンピックの標語 One Inspires Manyです。オリンピックのメダル争いとはニュアンスが異なって、パリ

リンピックのメダルは国を超え、選手自身とその仲間に手渡すという感があり、国は一步さがってその栄光の背景であると思えるのです。

今度の冬季オリンピック、パラリンピックの開催地バンクーバーはバリアフリーの都市としてもよく知られており、歩行者路と自転車路の間に並行してローラースケートの専用路もある愉快的な都市です。人に優しい都市づくり国づくりの感じられるカナダ、バンクーバーの冬季オリンピック、パラリンピックでした。

(2010.3.23)

オリンピック国別メダル獲得数

	Country	Gold	Silver	Bronze	Total
1	CANADA	14	7	5	26
2	GERMANY	10	13	7	30
3	UNITED STATES	9	15	13	37
4	NORWAY	9	8	6	23
5	KOREA	6	6	2	14
6	SWITZERLAND	6	0	3	9
7	CHINA	5	2	4	11
7	SWEDEN	5	2	4	11
9	AUSTRIA	4	6	6	16
10	NETHERLANDS	4	1	3	8
11	RUSSIAN FEDERATION	3	5	7	15
12	FRANCE	2	3	6	11
13	AUSTRALIA	2	1	0	3
14	CZECH REPUBLIC	2	0	4	6
15	POLAND	1	3	2	6
16	ITALY	1	1	3	5
17	BELARUS	1	1	1	3
17	SLOVAKIA	1	1	1	3
19	GREAT BRITAIN	1	0	0	1
20	JAPAN	0	3	2	5
21	CROATIA	0	2	1	3
21	SLOVENIA	0	2	1	3
23	LATVIA	0	2	0	2
24	FINLAND	0	1	4	5
25	ESTONIA	0	1	0	1
25	KAZAKHSTAN	0	1	0	1

パラリンピック国別メダル獲得数

	Country	Gold	Silver	Bronze	Total
	GERMANY	13	5	6	24
	RUSSIAN FEDERATION	12	16	10	38
	CANADA	10	5	4	19
	SLOVAKIA	6	2	3	11
	UKRAINE	5	8	6	19
	UNITED STATES	4	5	4	13
	AUSTRIA	3	4	4	11
	JAPAN	3	3	5	11
	BELARUS	2	0	7	9
	FRANCE	1	4	1	6
	ITALY	1	3	3	7
	NORWAY	1	3	2	6
	SPAIN	1	2	0	3
	SWITZERLAND	1	2	0	3
	NEW ZEALAND	1	0	0	1
	AUSTRALIA	0	1	3	4
	FINLAND	0	1	1	2
	KOREA	0	1	0	1
	SWEDEN	0	0	2	2
	CZECH REPUBLIC	0	0	1	1
	POLAND	0	0	1	1

資料：2010 The Vancouver Organizing Committee for the 2010 Olympic and Paralympic Winter Games